

令和５年度 外国人留学生選抜・特別選抜（帰国子女） 小論文
出題の意図と解答の傾向

問題 1

本文は、柴田翔『希望としてのクレオール』（筑摩書房、1994 年）からの出題である。クレオールとは、異なった言語を話す複数の民族の接触・交流から生まれた混合言語（ピジン）を母語とする人々、および言語を指す。本文が示す人とことばの関わり、そして、そこから生まれた新しい社会のあり方は、「多文化共生」型社会の実現に向けて多様な示唆を含む。

【出題の意図と解答の傾向】

＜問 1＞ 語句抜き出し

本文を読み、文中のある語句と同意義の表現を本文中から抜き出す形式である。本文のテーマに関わるキーワードの正確な理解を問うものである。

概ね、適切な語句の抜き出しができていた。なお、3) については「商取引き」「商売の取引き」のいずれも正解とした。

＜問 2＞ 正誤選択

本文の内容に関する問題文を読み、その正誤を判定する問題形式である。本文全体の正確な理解度を問うた。

多くの受験生が問題文の正誤判断ができていたようだった。なお、5) についてはクレオールという語句が人々を指す場合もあるが、本文中では言語を指すものであることから、×を正解とした。

＜問 3＞ 論述

本問は、本文と関係した課題文に対する 200 字程度の論述形式である。課題を正確に把握する文章理解能力、また、理解を踏まえての適切な事例選択と文章作成能力を問うたものである。

課題文が問うている「意味や使われ方が変化したことばの事例」は、概ね適切な例が挙げられていた。しかし、例として挙げたことばの意味の説明にとどまり、そのことばの変化の過程や背景にまで言及したものは限られていた。

問題 2

【出題の意図】

本文は、池田理知子/塙幸枝編著『グローバル社会における異文化コミュニケーション-身近な「異」から考える』(三修社, 2019 年)からの出題である。

問題 2 では、本文を読み、それに対する自身の考えを 500 字から 600 字で述べるように求めている。出題意図としては、課題となる本文を理解する読解能力と、本文を理解した上で、具体的な例を示し、自身の意見を記述する能力を測定している。

具体的には、本文の内容は、日本語能力試験 N2 級レベルの語彙レベルに調整したものの読解力を求めている。また内容としても、ケニアの例をもとに、〈国＝文化〉といった国ごとに文化が分かれるといった考えに基づいたステレオタイプの問題点について、言及されているものを題材としており、外国人留学生が日本での学業において直面せざるを得ないテーマへの意見の記述を求めている。

【解答の傾向】

「〈国＝文化〉のステレオタイプな^{ひょうしょう}表象」の例については、それぞれ示すことができていたが、それが具体的にどのような影響を私たちの身近に与えているのかといった考えを記述する部分については、受験者によって差が生じていた。アメリカの言語教育機関のひとつでもある ACTFL (American Council on the Teaching of Foreign Languages) の能力基準でも「具体的な事象の記述能力」よりも「根拠をもった主観的な意見の記述能力」のほうによりハイレベルに位置づけられており、能力差が現れたと考えられる。